

2023年9月1日

中東関係者各位

九門康之

I

「中東なう」(旧中東レポート) 2023年8月

中東動向の短信レポートです。

➤ 中東の経済情勢と対応

世界的な物価上昇とこれに対応するための当局による政策金利引き上げは、中東の新興国経済に影響を与えている。エジプトでは、2022年のウクライナ戦争による小麦価格の急騰が、国内物価上昇の引き金になった。また、小麦輸入額の増加は外貨準備高の減少を招いて経済を圧迫している。

金利面では、米国の政策金利引き上げは、資金の米国への還流を引き起こした。ドルとの実質金利差の拡大はトルコなどで対ドル相場下落の要因の一つとなった。新興国ではこの流れを止めるために自国通貨の政策金利を引き上げざるをえず、景気へのマイナスの影響が懸念される。

中東諸国は景気を維持するため国内での投資・支出を拡大している。エジプトやトルコは、財政支出を拡大して景気を刺激し、サウジアラビアやアラブ首長国連邦(UAE)では、戦略投資機関(サウジアラビアのパブリック・インベストメント・ファンドなど)が国内のプロジェクトへの投資を拡大している。また、各国とも、海外からの直接投資(FDI)取り込みが熱心だ。FDIは地元で雇用を生むことから、持続的経済成長への施策の一つとなっている。

➤ サウジアラビアの地位浮上

サウジアラビアの国際的地位が浮上している。ウクライナ戦争の早期終結をめざした国際会議では、G7の他にインドやブラジルといったグローバル・サウス諸国や中国が参加したことは、サウジアラビアを含む新たな勢力が形成されつつあることを示している。

中東地域では、サウジアラビアはイランとの二国間関係の正常化を進めている。今年3月、中国の仲裁で国交正常化に合意した。その後、相互の大使館を再開し、8月にはイランのアブドラヒアン外相がサウジアラビアを訪問、実質的なサウジアラビアの権力者であるムハンマド・ビン・サルマン皇太子と会談した。両国の代理戦争ともいわれるイエメン紛争解決に向けて話し合いを行ったとの報道もある。

他方、米国はサウジアラビアをイスラエルとの国交正常化に引き込もうと懸命な努力を続けている。その成果からか、サウジアラビアは初めてパレスチナ大使兼エルサレム領事を、非駐在ながら任命した。

➤ その他の動き

●エジプト、商工業大臣がトルコ訪問●イエメン、サウジアラビアが12億ドルの経済援助  
●サウジアラビア、景気後退に（GDPが2四半期連続でマイナス）●アブダビで大雨（夏としては珍しい。）●レバノン、ヒズボラとキリスト教徒が衝突●サウジアラビア、中国企業がNEOMの水素案件を獲得●イラン・米国、囚人交換に合意●リビア、イタリアのSaipemが海底ガス田開発受注●オマーン、上期財政黒字●ドバイ、エミレート航空がロンドン便増便●パレスチナ、ファタハがイスラミックジハードと和解●リビア、9月からリビア航空のイタリア乗り入れ再開●シリア、エルドアン大統領との会合に否定的「ソフトドリンクを飲むためだけに会うことはない」●エジプト、公務員の最低賃金月3,000ポンド（現在の相場で約100ドル）に引きあげ●UAE、大統領がエチオピア訪問、二国間関係協議●サウジアラビア、米国債保有残高過去最低水準●エジプト、スエズ湾で新しい油田を発見（現在日量70万バレル生産、世界27位）●リビア、外務大臣がイスラエル外務大臣と秘密会議●サウジアラビア、ガス掘削会社（ADES）がIPO●ドバイ、クリークタワー、デザイン見直し●

ご参考：情報収集手法

本レポートは、主に中東各国の電子メディアを継続してモニターして得た情報を材料にしています。マクロ経済・金融統計数値の出所は、IMF、地場中央銀行統計等です。コメントは筆者の個人的見解です。

以 上